

8 透析開始時における安全性を求めて
～患者サービス向上への取り組み～

依田窪病院透析室 近藤美香 桜井久美生 児玉清子

市川千代子 翠川基子

{はじめに}

近年医療の質と共に安全性が問われている。平成13年厚生省マニュアル公表後当院は、安全確保の為二人穿刺へと移行した。しかし明らかなインシデントの減少には至らず、穿刺条件3パターンによる実践を試みたところ、インシデントの減少に繋がらず、透析開始時の安全性を提供する事が出来た。

{研究方法}

対象 当院維持透析患者 49名
(昼間 37名 夜間 12名)

研究期間 平成13年9月～平成14年11月
一人穿刺10分 (平成13年9月～平成14年1月) (5ヶ月)
二人穿刺5分 (平成14年2月～平成14年6月) (5ヶ月)
二人穿刺10分 (平成14年7月～平成14年11月) (5ヶ月)

以上の3パターンを実践した。

質問紙法による聞き取り調査・インシデントレポート過去2年間の集計調査。

{用語の定義}

1) 一人穿刺10分・一人で穿刺と機械操作確認を10分で行なう。血圧測定、観察は、全ての穿刺が終了してから行なう。

(全穿刺時間30～40分)

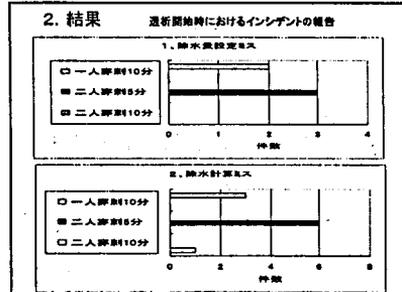
2) 二人穿刺5分・穿刺を行なうものと、穿刺の介助及び、機械操作を行なうものに分かれ、確認は二人で行ない5分で終了。血圧測定は全ての穿刺が終わってから行なう。

(全穿刺時間30～40分)

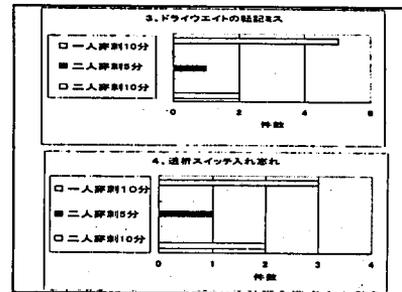
3) 二人穿刺10分・穿刺を行なうものと、穿刺の介助及び機械操作を行なうものに分かれ、確認は二人で行う。血圧測定も10分の中で行う。

(全穿刺時間1時間)

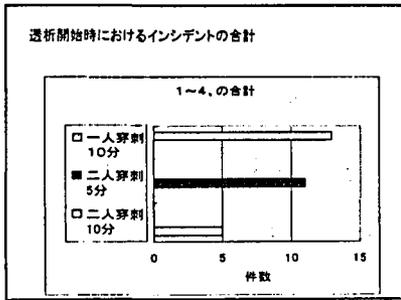
{結果} 透析開始時におけるインシデントの報告。



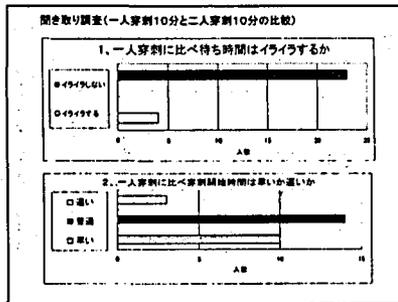
当透析室において、平成13年度のインシデントの総数は、142件内、透析開始時のインシデントの総数は、58件で40.8%をしめていた。その中でも、除水量設定ミスは、一人穿刺10分より二人穿刺5分の時が一件多く、二人穿刺10分では、まったく無かった。次に、除水計算ミスが二人穿刺5分が6件と一番多く、次に一人穿刺10分が3件、二人穿刺10分が一件であった。



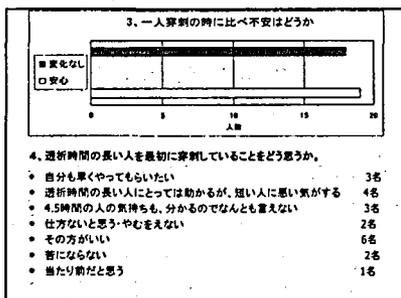
次にドライウエイトの転記ミスが、一人穿刺10分5件と一番多く、二人穿刺5分、10分の差は、みられなかった。次に透析スイッチ忘れが、一人穿刺10分が3件、二人穿刺5分が一件、二人穿刺10分が2件とあまり変わりなかった。



透析開始時におけるインシデントの合計は、一人穿孔10分では13件、二人穿孔5分では11件、二人穿孔10分では5件であった。



次に聞き取り調査一人穿孔10分と二人穿孔10分の比較です。一人穿孔に比べ待ち時間は、いろいろなさかどうかは、ほとんどの患者がいろいろなと答えているが、いろいろな患者の中には、9時30分を過ぎるといろいろなと答えた患者もいた。一人穿孔に比べ、穿孔時間は、早いか遅いかは、穿孔時間が普通、早いと答えた患者は多くいるが、遅いと答えた患者も3名いた。



一人穿孔の時に比べ不安はどうかは、不安と答えた患者は無く、安心と答えた患者は19名、変わりないと答えた患者が18名もいた。透析時間の長い人を最初に穿孔していることをどう思うか。自分も早くやってもらいたい3名

透析時間の長い人は助かるが、短い人に悪い気がする4名。4時間30分の人の気持ちも分かるので、なんとも書えない3名。仕方ない、やむをえない2名。そのほうが良い6名。苦にならない2名。当たり前だと思う1名。であった。

〔考察〕

当院では、従来一人穿孔10分で行っていたが、平成13年のマニュアル公表後、安全確保の為二人穿孔へと移行した。しかし、一人の穿孔に10分かけていたのでは、患者の待ち時間が長くなる為5分穿孔としたが、明らかなインシデントの減少には至らなかった為、二人穿孔10分への改善を試みた。また、二人穿孔になった事により、患者からの穿孔時間遅延の声が懸念されていたが、穿孔の予定組むことにより、解決された。インシデントの数では、一人穿孔の時と二人穿孔の時では、グラフから個々のデータを比較してみても、全体的に大きな差はないように思われたが、4つのインシデントの総数を見ると、二人穿孔10分が明らかな減少をしている事が分かった。「リスクは人間が活動する限り何らかの形で存在するとある。」インシデントの背景を考えると、二人穿孔であっても時間が短いと、気の焦りから、慌てて計算し、機械を操作する。一人一人が除水の計算をしない。設定した機械をきちんと見ない。透析条件が不十分等の要素が絡み合っ、一つのインシデントに繋がっていることがわかった。その結果、二人穿孔10分と言う透析条件を整えた事が、インシデントの減少に繋がったと思われる。

〔まとめ〕

二人穿孔10分と言う穿孔条件によりインシデントを減少させる事が出来た。透析時間を順番制にすることにより、待ち時間をなくすことができた。二人穿孔になったことにより、スタッフのプレッシャーが減り、落ち着いて穿孔に取り掛かれる、また、穿孔ミスの対応もスムーズに出来るようになり、患者サービスを低下させる事なく、安全かつ清潔操作での透析を提供することが出来た。

引用文献

日本透析協会：透析医療事故防止のための標準的操作マニュアル 平成12月5か日刊 P6